

2024年3月期
第2四半期決算説明会

2023年11月13日
株式会社ユタカ技研

Ⅰ．2024年3月期 第2四半期累計決算概況

Ⅱ．2024年3月期 見通し

Ⅲ．事業状況

2024年3月期

第2四半期累計 決算概況

24年３月期第2四半期累計 連結決算概況

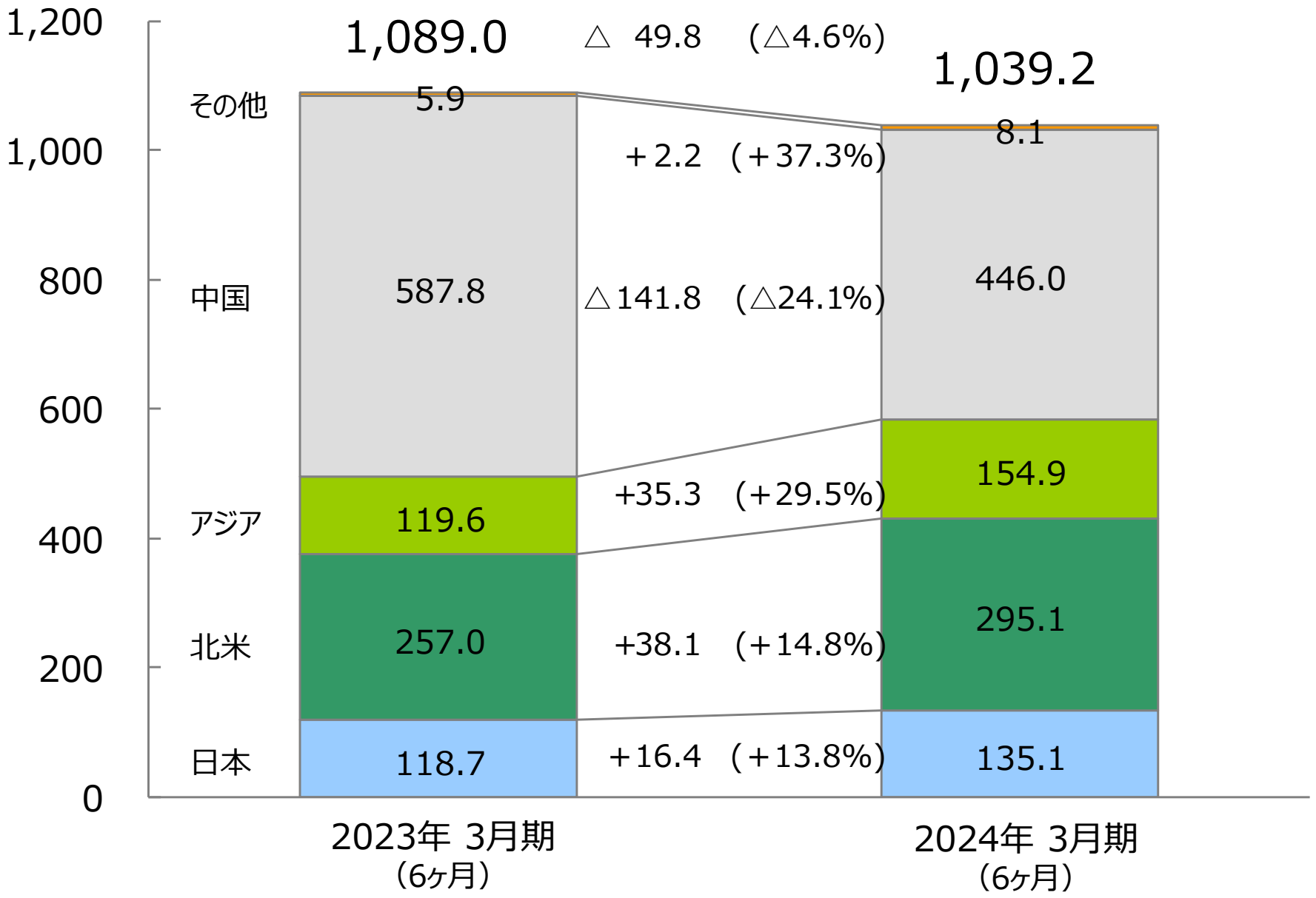
（単位：億円）

	2023年 3月期（6ヶ月）	2024年 3月期（6ヶ月）	増　減
売上収益	1,089.0	1,039.2	△4.6%
営業利益	10.7	31.8	+197.2%
税引前利益	24.5	37.8	+54.3%
四半期利益	7.7	24.8	+222.5%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	5.4	21.1	+289.7%
基本的１株当たり四半期利益	36.50円	142.22円	+105.72円
１株当たり配当金	36.00円	40.00円	+4.00円
	($1=¥134)	($1=¥141)	

顧客からの受注増があったものの、製品に含まれる貴金属の価格下落により減収
原材料や輸送費高騰分の価格転嫁等により増益

24年３月期第2四半期累計 地域別売上収益

（単位：億円）　（セグメント間の内部売上収益及び振替高を除く）



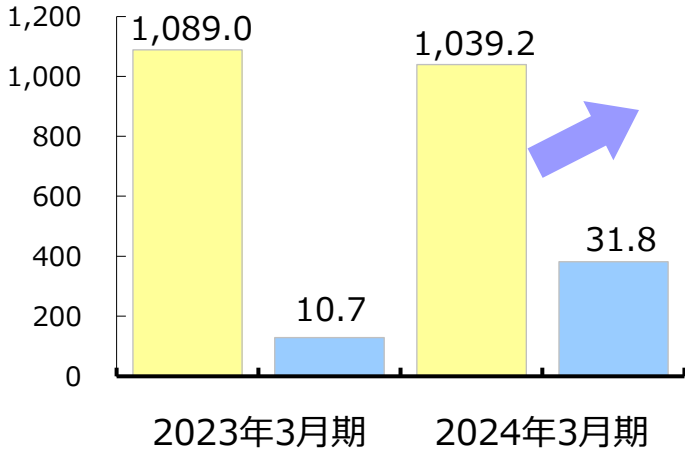
日本･北米･アジアでの増収はあるものの、中国における減収により、全体で減収

24年３月期第2四半期累計 地域別営業利益

（単位：億円）

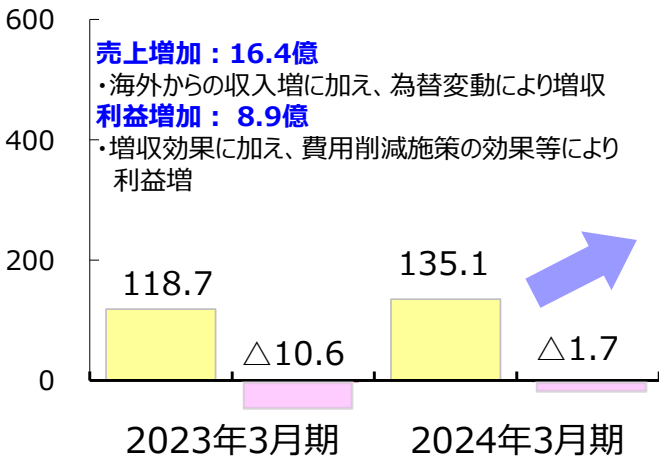
売上収益　利益増減
営業利益　営業損失

＜全体＞



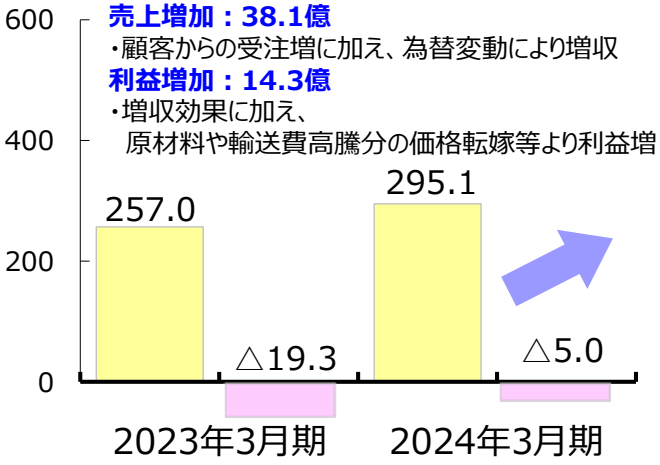
＜日本＞

売上増加：16.4億
・海外からの収入増に加え、為替変動により増収
利益増加： 8.9億
・増収効果に加え、費用削減施策の効果等により利益増



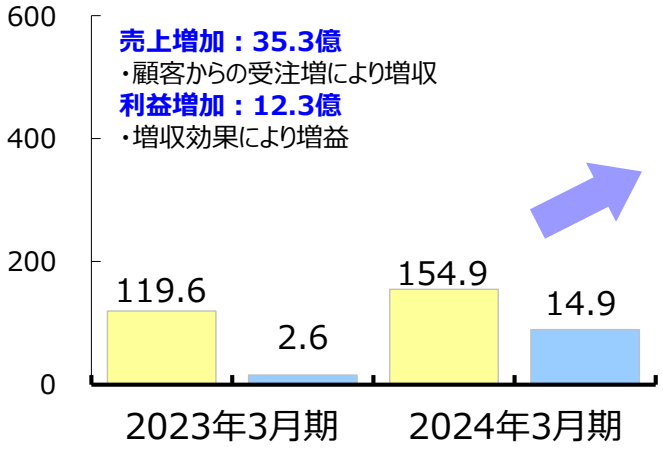
＜北米＞

売上増加：38.1億
・顧客からの受注増に加え、為替変動により増収
利益増加：14.3億
・増収効果に加え、
原材料や輸送費高騰分の価格転嫁等より利益増



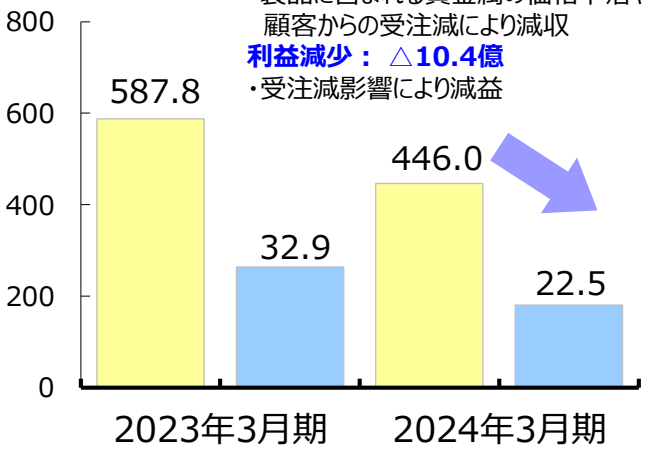
＜アジア＞

売上増加：35.3億
・顧客からの受注増により増収
利益増加：12.3億
・増収効果により増益



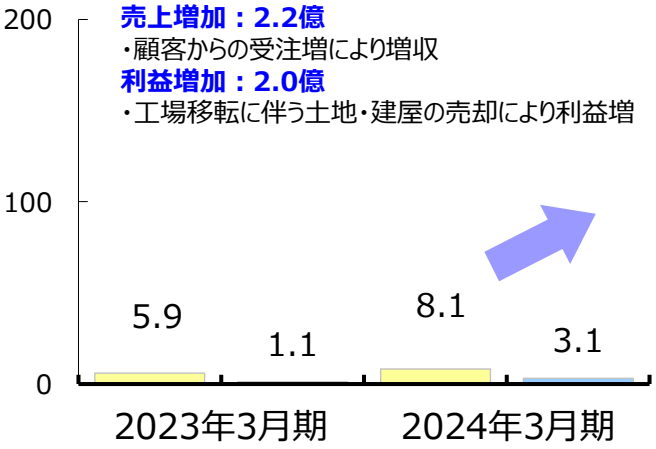
＜中国＞

売上減少：△141.8億
・製品に含まれる貴金属の価格下落や顧客からの受注減により減収
利益減少： △10.4億
・受注減影響により減益



＜その他＞　（ブラジル）

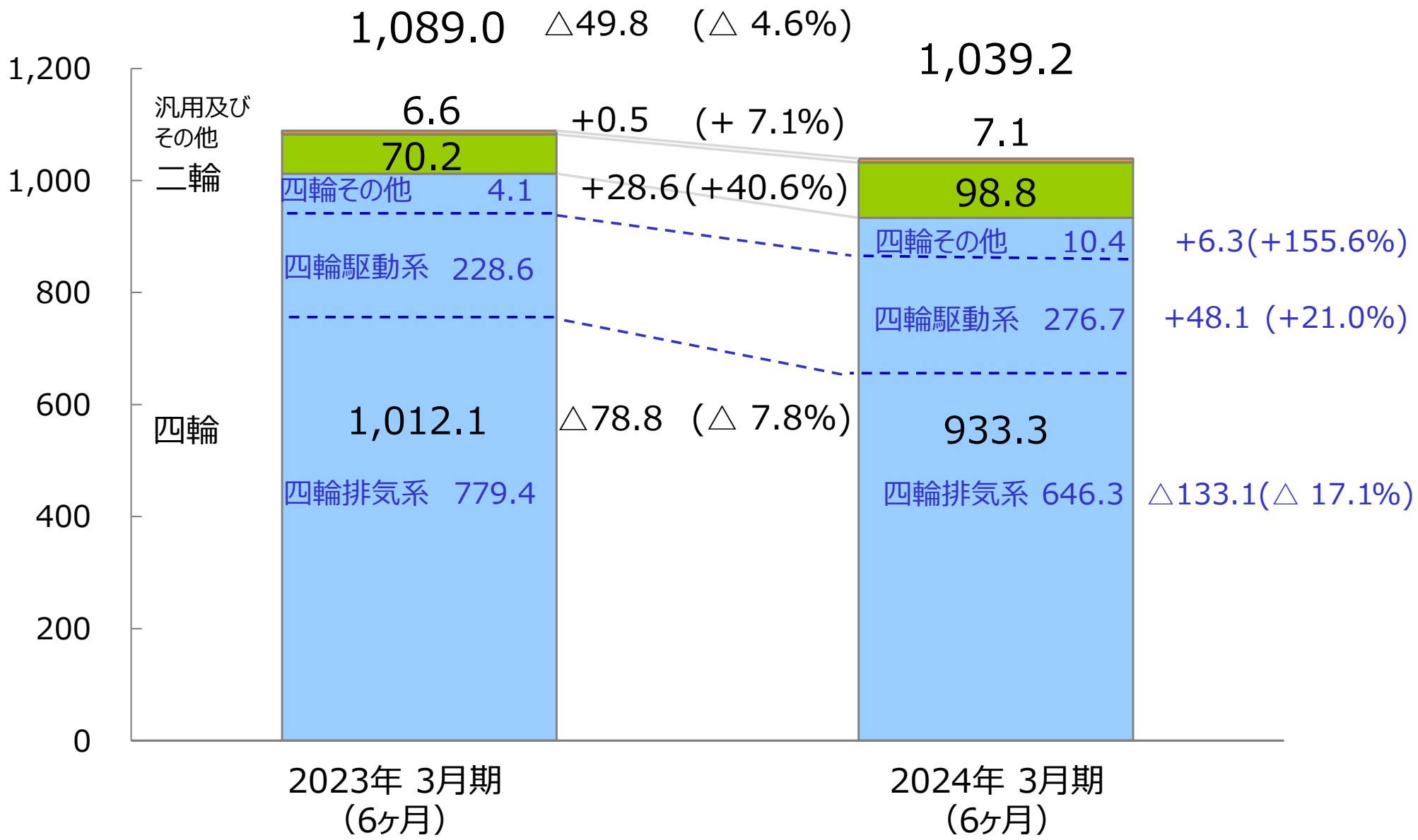
売上増加：2.2億
・顧客からの受注増により増収
利益増加：2.0億
・工場移転に伴う土地・建屋の売却により利益増



日本・アジアでの顧客からの受注増加に加えて、北米での原材料や輸送費高騰分の価格転嫁等により増益

24年３月期第2四半期累計 製品別売上収益

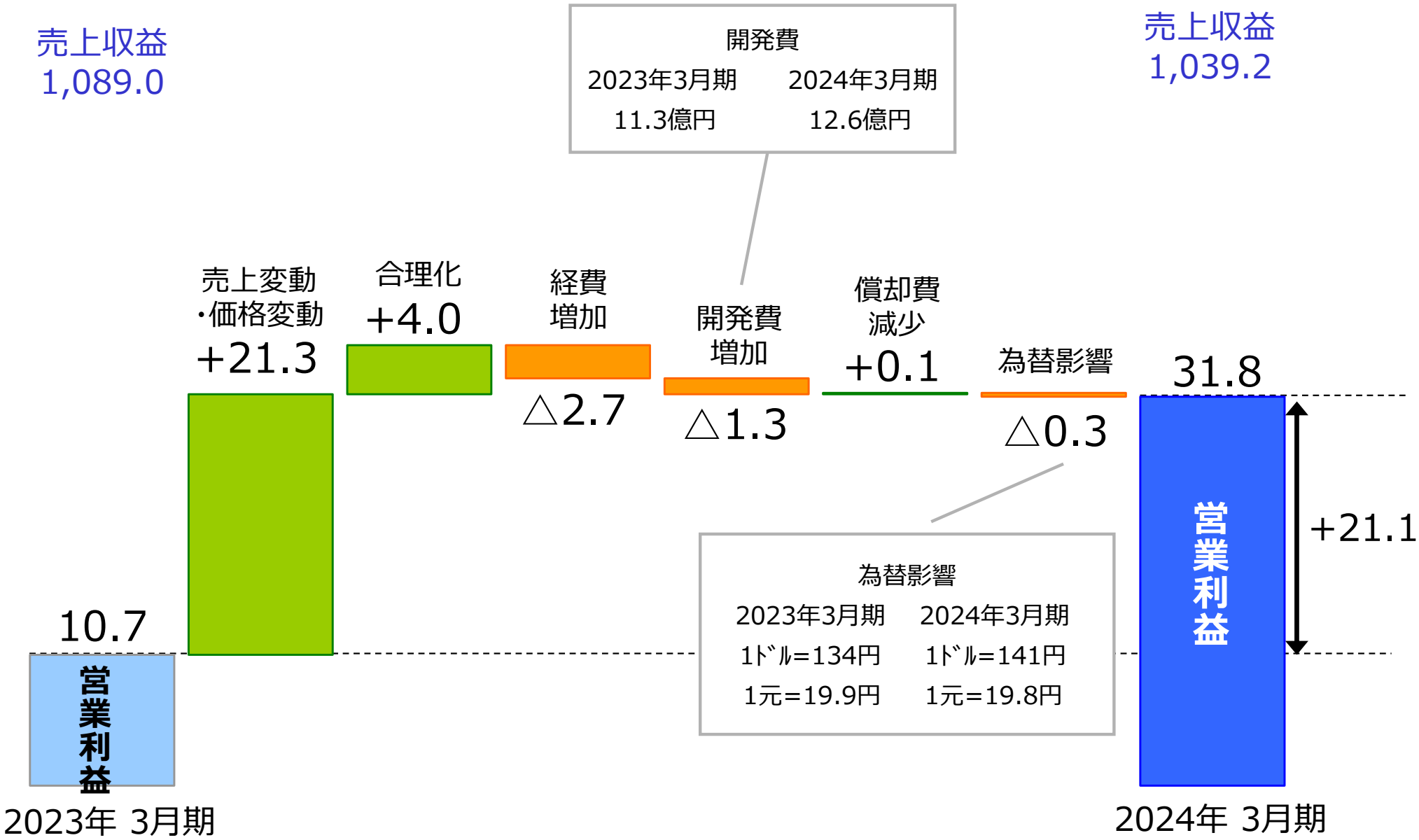
（単位：億円）



主に自動車部品四輪(排気系)の受注減により減収

24年３月期連結決算概況 営業利益 増減要因

（単位：億円）



日本･アジアの受注増加に加えて、
北米での原材料や輸送費高騰分の価格転嫁等により増益

2024年3月期
見通し

24年３月期連結見通し

（単位：億円）

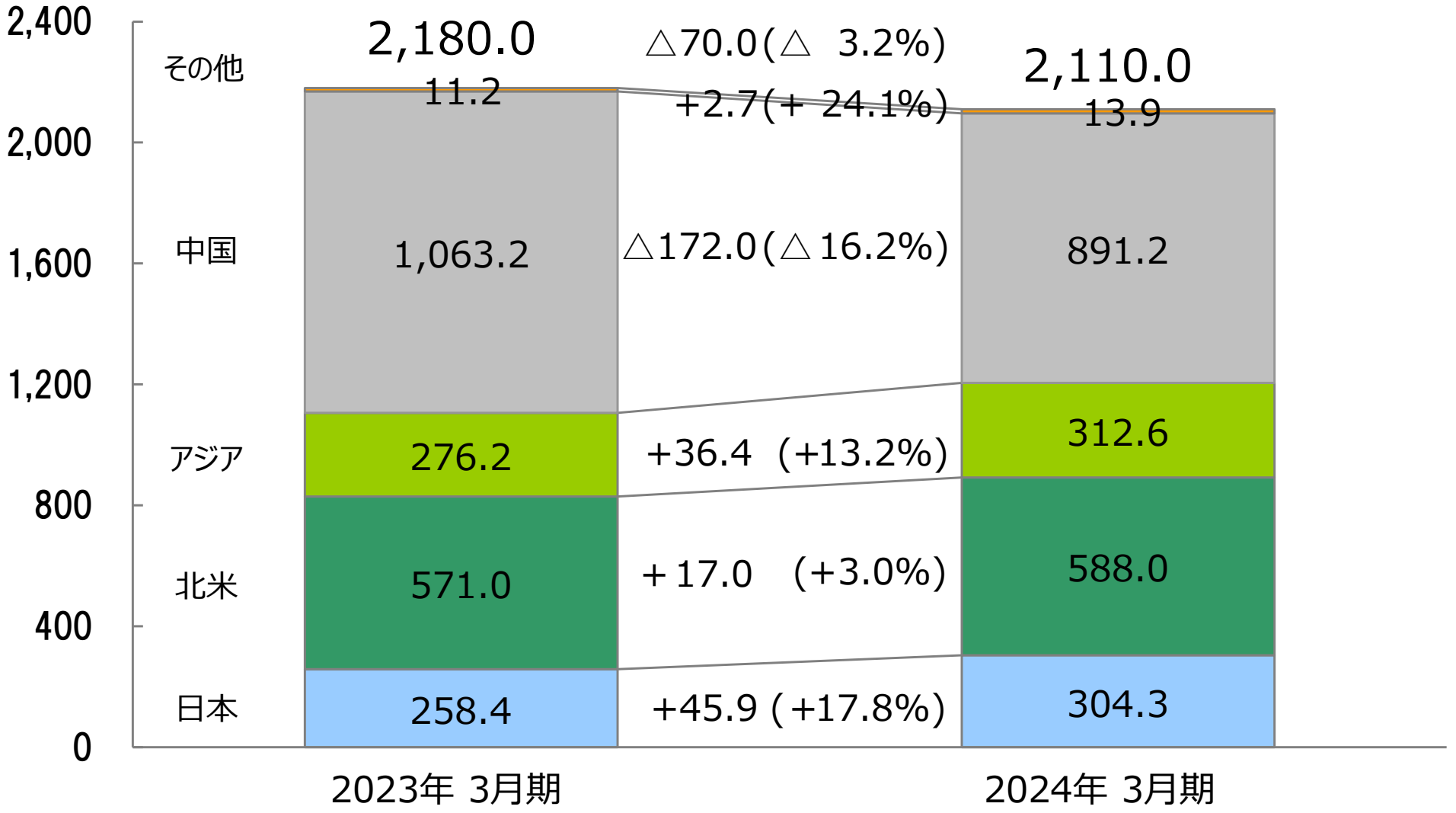
	2023年 3月期	2024年 3月期	増　減
売上収益	2,180.0	2,110.0	△3.2%
営業利益	38.5	82.0	+112.8%
税引前利益	49.3	87.0	+76.4%
当期利益	16.4	64.0	+290.5%
親会社の所有者に帰属する当期利益	14.4	54.0	+274.1%
基本的１株当たり当期利益	97.42円	364.42円	+267.00円
１株当たり配当金	72.00円 ＊中間 36円，期末 36円	90.00円 ＊中間 40円，期末 50円	+18.00円
	($1=¥135)	($1=¥140)	

製品に含まれる貴金属の価格下落により減収するものの、
利益体質強化及び原材料や輸送費高騰分の価格転嫁等により、増益となる見通し

24年３月期連結見通し 地域別売上収益

（単位：億円）

（セグメント間の内部売上収益及び振替高を除く）



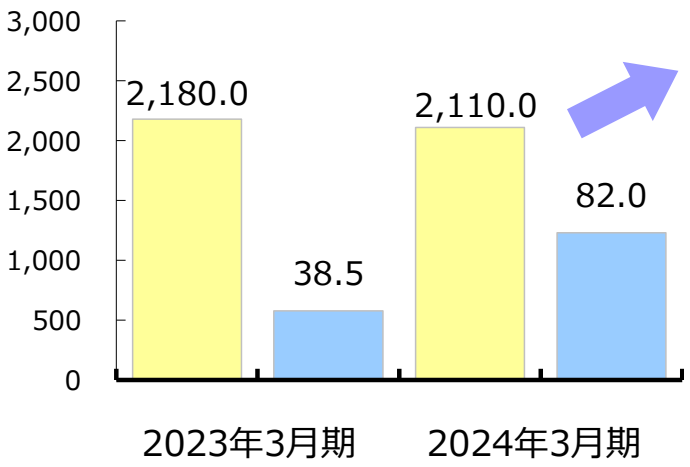
中国地域において製品に含まれる貴金属の価格下落により減収となる見通し

24年３月期連結見通し 地域別営業利益

売上収益　利益増減　P11
営業利益　営業損失

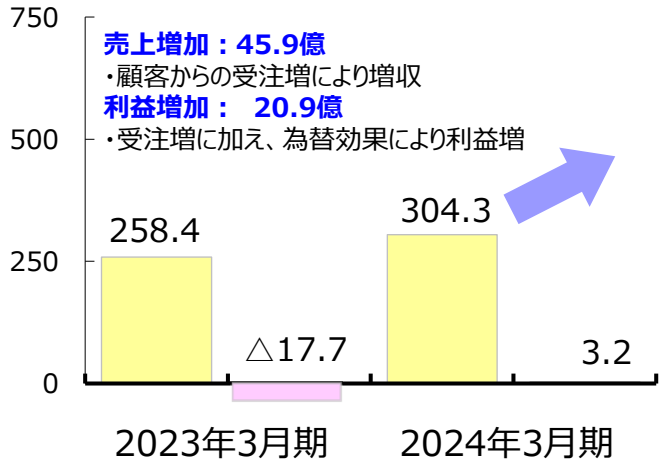
（単位：億円）

＜全体＞



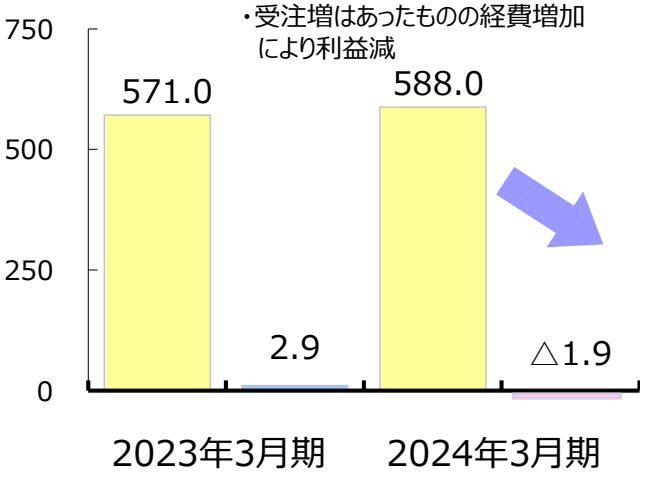
＜日本＞

売上増加：45.9億
・顧客からの受注増により増収
利益増加：　20.9億
・受注増に加え、為替効果により利益増



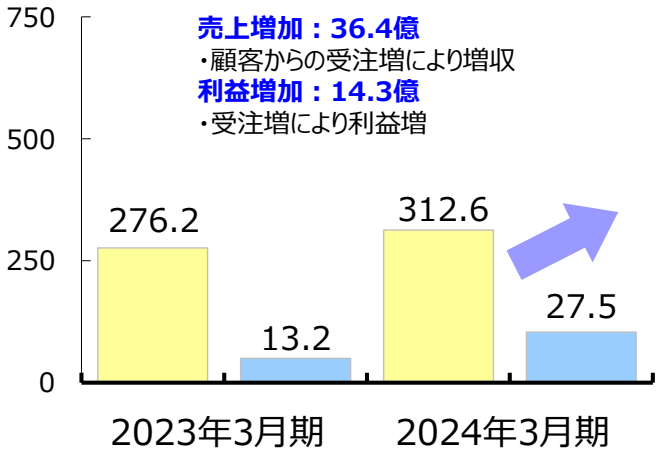
＜北米＞

売上増加：17.0億
・顧客からの受注増により増収
利益減少：　△4.8億
・受注増はあったものの経費増加により利益減



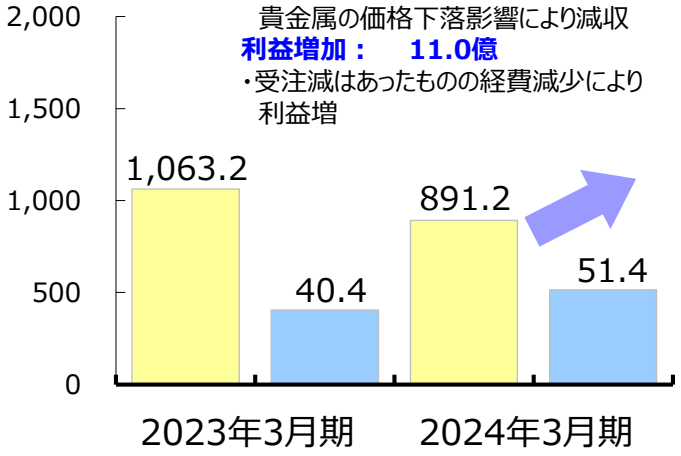
＜アジア＞

売上増加：36.4億
・顧客からの受注増により増収
利益増加：14.3億
・受注増により利益増



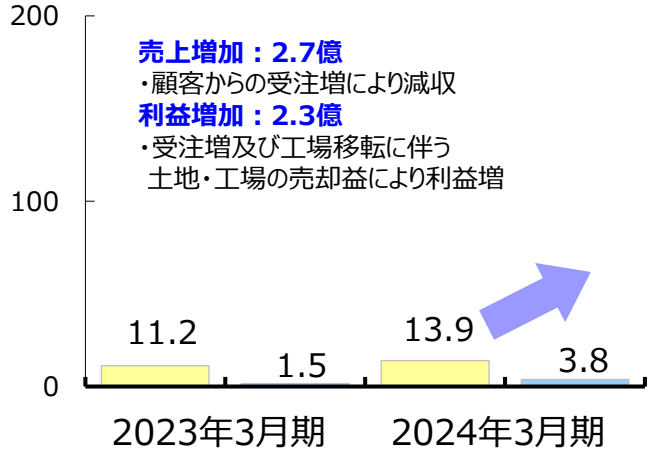
＜中国＞

売上減少：△172.0億
・顧客からの受注減及び製品に含まれる貴金属の価格下落影響により減収
利益増加：　11.0億
・受注減はあったものの経費減少により利益増



＜その他＞

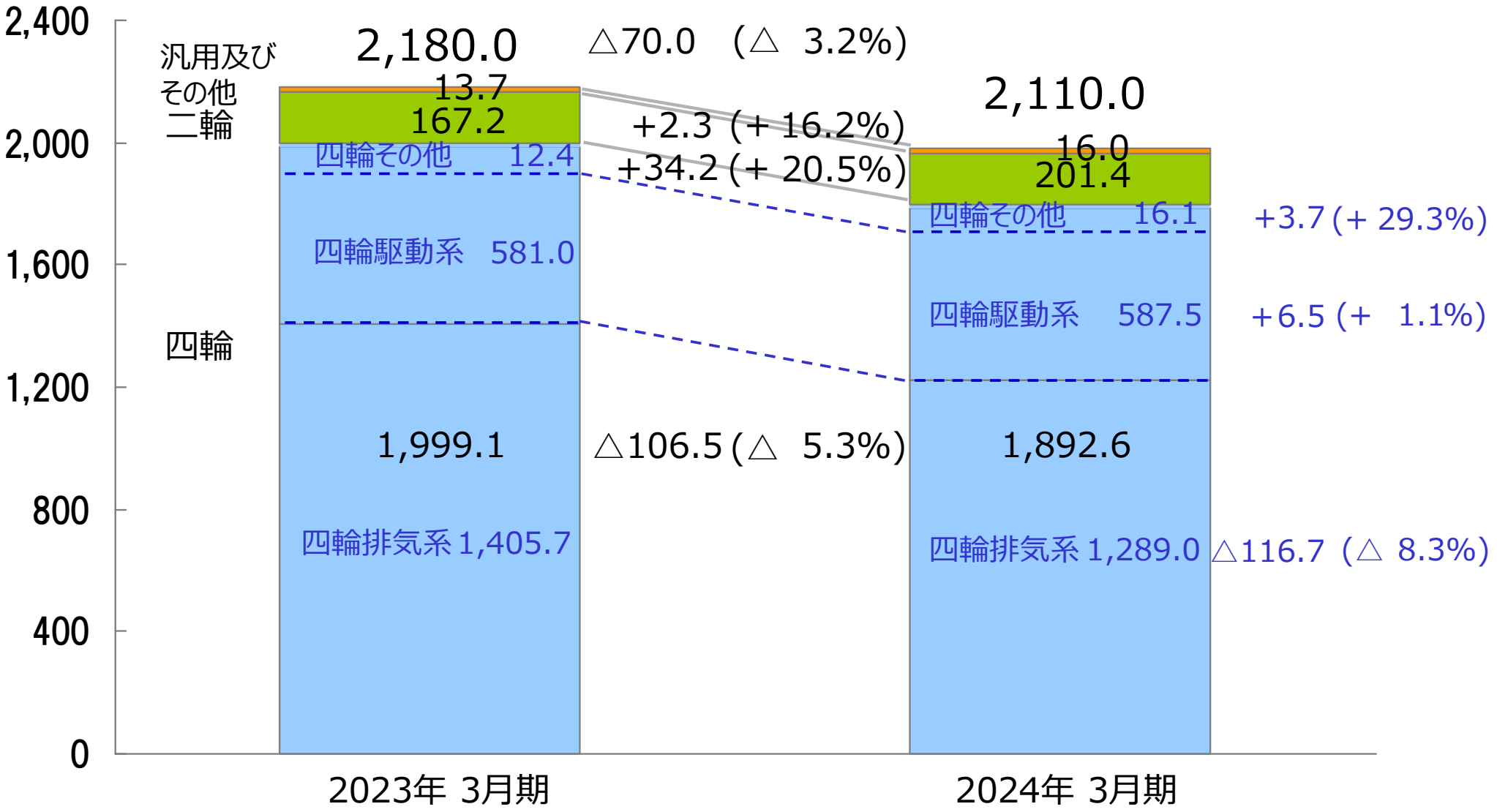
売上増加：2.7億
・顧客からの受注増により減収
利益増加：2.3億
・受注増及び工場移転に伴う土地・工場の売却益により利益増



北米地域で減益となるものの、日本・アジア・中国・その他地域での顧客からの受注が増加に推移していることに加え円安効果により増益見通し

24年３月期連結見通し 製品別売上収益

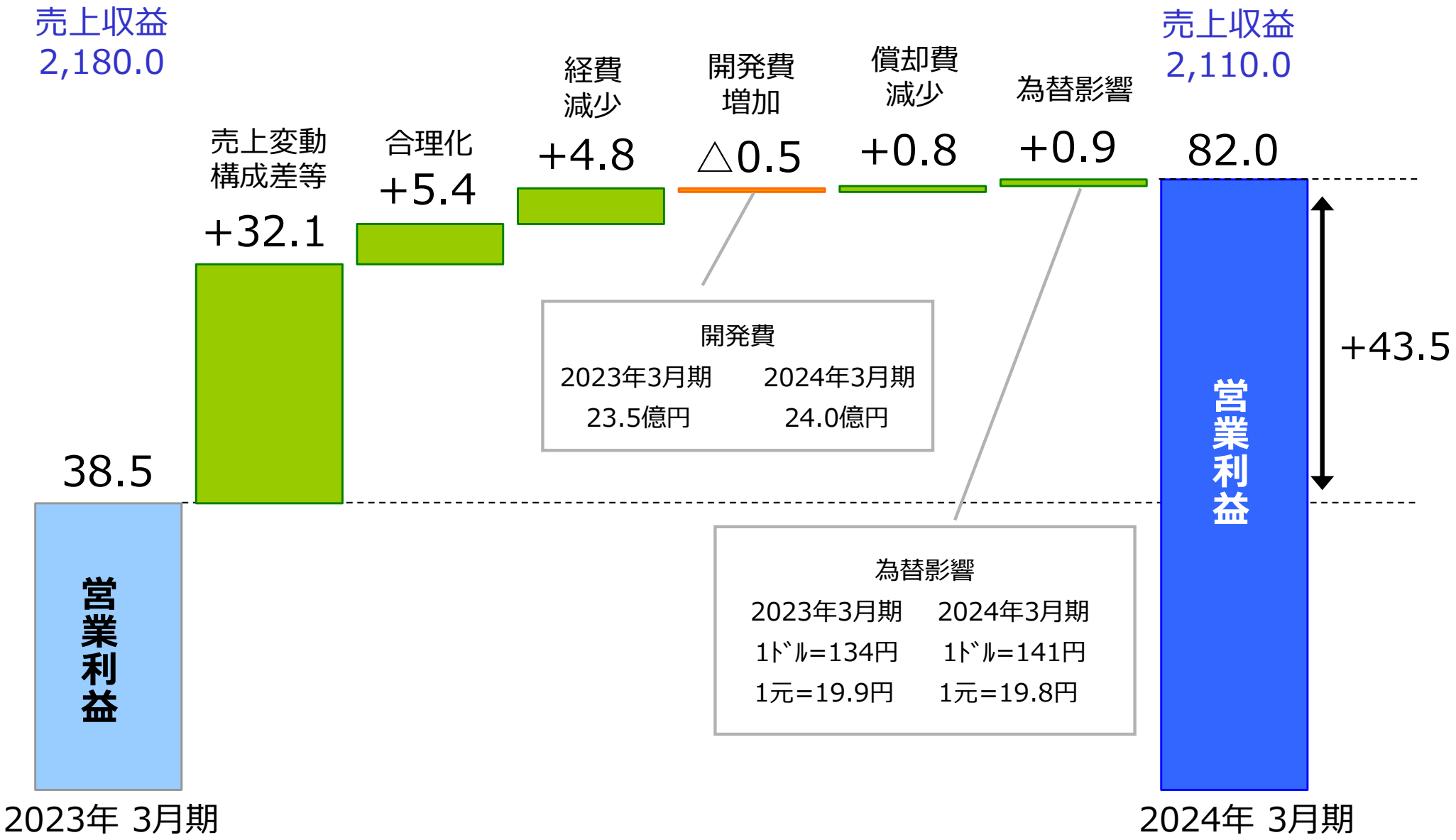
（単位：億円）



主に自動車部品四輪（排気系）で減収となり、全体で減収見通し

24年３月期連結見通し 営業利益 増減要因

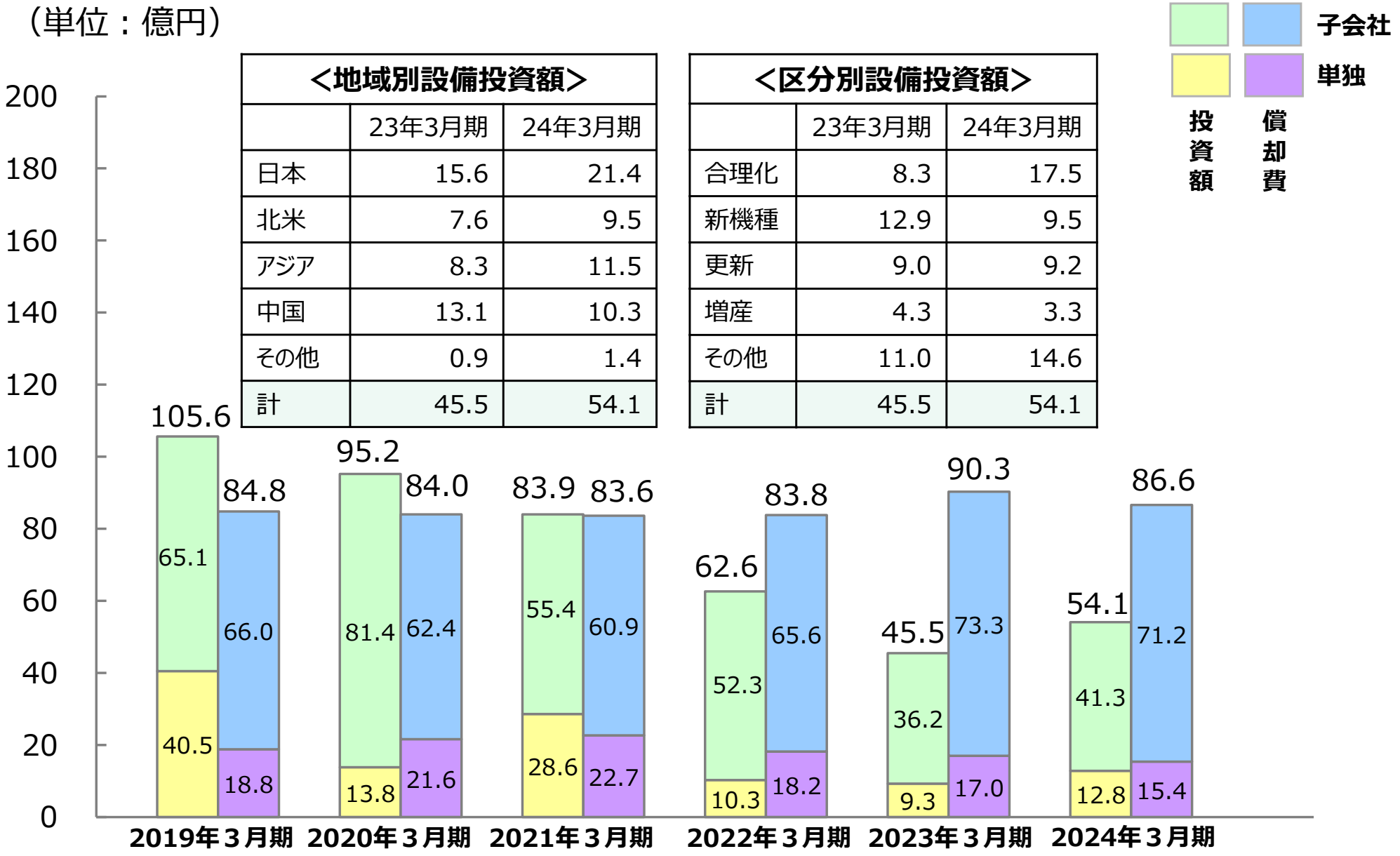
（単位：億円）



顧客からの受注増加や合理化･経費減少等により増益見通し

24年３月期連結見通し 設備投資額の推移

（単位：億円）



＜地域別設備投資額＞

	23年3月期	24年3月期
日本	15.6	21.4
北米	7.6	9.5
アジア	8.3	11.5
中国	13.1	10.3
その他	0.9	1.4
計	45.5	54.1

＜区分別設備投資額＞

	23年3月期	24年3月期
合理化	8.3	17.5
新機種	12.9	9.5
更新	9.0	9.2
増産	4.3	3.3
その他	11.0	14.6
計	45.5	54.1

単独は新機種投資が増加、子会社は合理化投資、更新投資が増加見通し

事業状況

新コア事業の確立

『新コア事業推進室』が2023年7月に発足し、MOTOR事業の拡大に着手

営業戦略 >>> 新規受注

市場規模と成長性

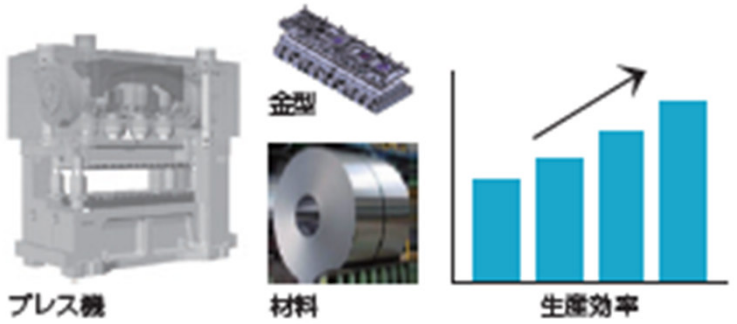


どこにチャンスがあるか市場調査

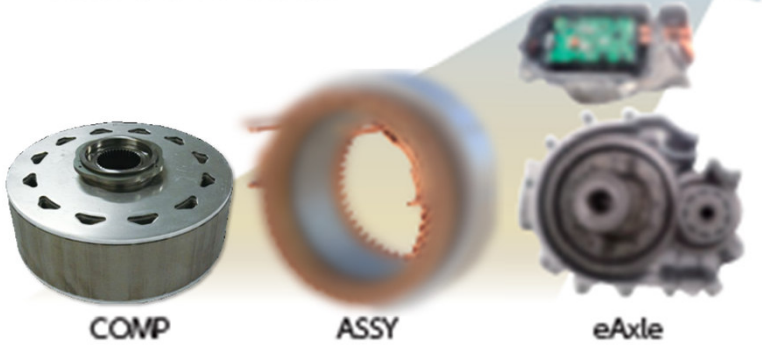
地域	顧客リスト	売上目標
中国	A社 / B社	地域／顧客ごとに設定
北米	C社 / D社	
アジア	E社 / F社	
日本	G社 / H社	

お客様への提案戦略を策定

生産戦略 >>> 競争力強化



価格競争力のある設備・材料の調達、造りの進化



拡大に必要な技術･リソース検証

各機能本部･世界の地域本部･拠点に向けて発信

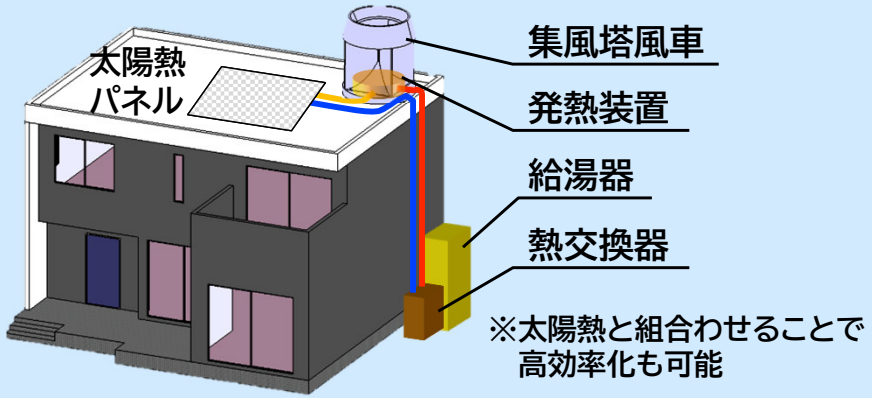
北見工業大学と風力発熱に関する共同研究開発を推進

一般的な住宅で消費されるエネルギーの約55%が暖房や給湯による熱エネルギーとなっており、主に化石燃料由来のエネルギーが使用されています。再生可能エネルギーである「風力」を直接熱に変換し、暖房や給湯に利用することができれば、化石燃料の使用量が低減し、低炭素社会の実現に貢献できます。

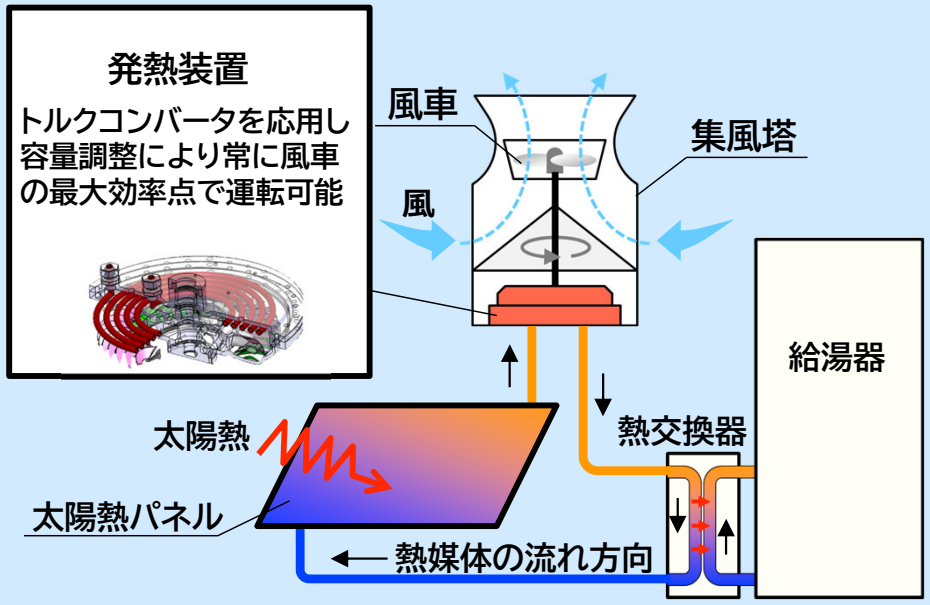
風力発熱について2022年4月より北見工業大学との共同研究開発を開始し、実証試験に向け推進中です。

開発の狙い

- 集風塔式による風車性能と心理的安全性の確保
- 流体攪拌式による高効率な「風→熱」エネルギー変換



風力発熱 一般住宅搭載イメージ図



風力発熱　システムイメージ図

製品、システム設計に欠かせないコンピュータ・シミュレーション

現在の製品・システム設計やものづくりにおいて、CAEによる性能予測、信頼性評価および生産性検証は欠かせないものとなっています。試作品をつくらずにコンピュータの中に再現して、製品にまつわる様々な物理現象をシミュレーションすることで、実験では見ることの難しい物理現象、例えば熱の移動や構造物のひずみなどを可視化することができ、トライ＆エラーを減らし、短期間での開発を可能とします。YutakaではCAEを開発に不可欠な要素と位置付け、独自のCAE技術開発も行い活用することで、業界TOPレベルの技術を有しています。

CAEとは

コンピュータ・シミュレーションは物理現象をコンピュータ上で再現する技術で、CAE (Computer Aided Engineering) と呼びます



メリット

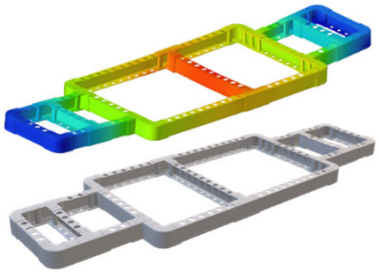
- 試作回数減で開発スピードを加速
- 試作/試験コストの削減
- 物理現象の可視化　など

実験では見ることの難しい以下のような物理現象を可視化

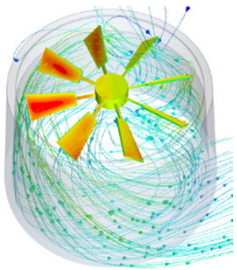
流れ　熱　圧力　変形　ひずみ　振動　音　磁力

CAE実施例

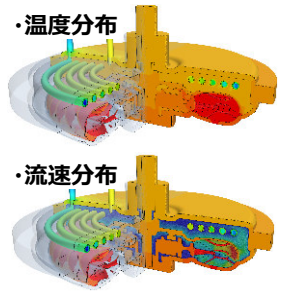
小型モビリティ用 汎用フレームの変形解析



集風塔風車の 流れ解析



発熱装置の 流れ、温度解析



各種団体の活動に参画し、最新の CAE技術の習得にも努めています

- 計算科学振興財団(FOCUS)
- MBD推進センター(JAMBE)

次代を切り拓け
~Be a Game Changer~